地質学雑誌　第119巻　第1号（通巻1408号）付録　平成25年1月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.16 No.1 January 2013

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

出　版　物　在　庫　案　内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地　質　学　論　集

第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~
（売り切れました）
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．
第58号　~~地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．~~
第59号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）
日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員価格500円（非会員600円）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ（20部以上購入の場合割引あり）
1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円
2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年3月発行　会員価格300円
3．城ヶ島たんけんマップ―深海から生まれた城ヶ島―　2010年9月発行　会員価格300円

国立公園地質リーフレットシリーズ
1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円（20部以上購入の場合割引あり）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか
第118年見学旅行案内書（2011年水戸）　会員頒価2,800円，〒500円
第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円
第117年見学旅行案内書（2010年富山）　会員頒価2,800円，〒500円
第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　会員頒価2,800円，〒500円
第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円
第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

日本地質学会*News*

Vol.16 No.1 January 2013

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　内藤一樹
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

年頭のあいさつ ……2
（会長　石渡　明）

仙台大会ニュース ……4
日本地質学会第120年学術大会：2013年９月14日（土）～16日（月）東北支部東北大学にて開催/トピックセッション募集

ご案内 ……6
日本学術会議主催　学術フォーラム「自然災害国際ネットワークの構築にむけて：固体地球科学と市民との対話」/J-DESC陸上掘削部会「地学雑誌特集号：陸上掘削科学の新展開」出版記念シンポジウム/ひょうご恐竜化石国際シンポジウム/第８回「海洋と地球の学校」のお知らせ/CHIKYU+10 国際ワークショップ開催/第50回 アイソトープ・放射線 研究発表会発表論文の募集

公募 ……7
国立極地研究所 研究教育系・地圏研究グループ助教公募/名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻（地球惑星科学系）教員公募/公募結果

表紙紹介 ……8

学協会・研究会報告 ……9
第29回国際堆積学会参加報告：その１（鈴木寿志ほか）/第１回IGCP589 “Development of the Asian Tethyan Realm: Genesis, Process and Outcomes” 国際シンポジウム参加報告（宮東　照）

TOPIC ……11
日本で唯一のモホ面露頭の保全について（石渡　明）

意見・提言 ……12
おおい町大島の県道法面工事における露頭保全のお願い

専門部会だより ……12
専門部会への登録のお願い/環境変動史部会が発足しました

お知らせ：学会サイトにコミュニティ機能が追加されました ……13

地学教育のページ ……14
おめでとう，金メダル！国際地学オリンピック（アルゼンチン大会）/JSEC2012：地球科学関係の発表が入賞

支部コーナー ……15
西日本支部：平成24年度総会・第163回例会のお知らせ/関東支部：銚子巡検　報告，『地質研究サミット』シリーズ：第１回「房総・三浦地質研究サミット」開催（第２報）

2013年度の会費払込について/災害に関連した会費の特別措置のお知らせ/学部学生割引・院生割引申請受付中 ……17

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について ……18

CALENDAR ……19

地質図在庫一覧 ……20

地質図の在庫一掃セール!!
2013年３月末日まで

※現在，地質学会に在庫があるものについてのみ，特別販売いたします．

ご注文はE-mail（main@geosociety.jp）またはFax（03-5823-1156）でお願いいたします．種類と数に限りがありますので，ご注文は先着順といたします．リストにないもの，追加等のご注文には応じられませんのでご了承ください（在庫リストは本誌p. 20を参照）．

なお，**今回のセール期間は，2013年３月末日まで**といたします．

価格については，ご注文の際に地質学会事務局にお問い合わせください．

事務局営業カレンダー　お休み　＊印は振替休日

1月 January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月 February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12

年頭のあいさつ

一般社団法人日本地質学会
会長　石渡　明

2013年の年頭に当たり，日本地質学会理事会を代表して会員の皆様にごあいさつを申しあげます．昨年５月に日本地質学会の会長に就任してから半年が経ちました．昨年は一昨年と異なり，５月の新潟県でのトンネル工事現場での天然ガス爆発事故や梅雨前線・台風に伴う豪雨災害は多少あったものの，大きな地震や火山噴火はなく，地学現象による災害は比較的少ない年でした．まず本学会に関連する昨年の動きを振り返りますが，特に最近の３ヶ月間は地質学会にとって様々な事がございました．

昨年前半には，前任の宮下会長のもとで「ネット地学部ちーとも」の運用が始まり，広報誌ジオルジュが創刊されて，昨年末には第２号も発行されました．ここ数年で本学会の広報・アウトリーチ活動は非常に充実してきたと思います．

９月はじめに本学会の長年の出版事業であった学部学生・一般向けの教科書「フィールドジオロジー」の第８巻（火成作用：高橋・石渡著）と第９巻（第四紀：遠藤・小林著）が刊行され，このシリーズが完結しました．編集委員長の秋山雅彦氏および各巻の著者の方々，そして共立出版の方々のご尽力に改めて感謝申し上げます．わが国で最近衰退傾向にある野外地質学の再興に，このシリーズが大きな力となることを期待します．もう一つの本学会の大きな出版事業であり，同じく野外地質学の総合的な専門書である日本地方地質誌（朝倉書店）も出版が進み，あとは東北地方と四国地方を残すだけになりました．こちらの方もなるべく早く完結することを期待します．また構造地質部会編の「日本の地質構造100選」も出版されました．地質学雑誌及びIsland Arcの出版も，特集号を含めて順調でした．

９月15～17日には大阪府立大学において，「都市から発信する地質学」のテーマのもと，第119年学術大会が成功裏に行われました．上町断層についての公開シンポジウム，東日本大震災復旧復興の事業報告，地震・津波・地盤災害に関する市民講演会，Geology of Japan出版に向けての英語の国際ワークショップなどが行われ，懇親会も大変盛り上がりました．悪天候のため巡検が１つ中止されましたが，他の巡検は予定通り実施され，共催の地質情報展も大盛況でした．本大会には大韓地質学会の兪剛民（ユ・カンミン）会長をお迎えして，両国の地質学会の交流協定をさらに５年間更新する式典を行いました．今後の両国の学術交流がさらに発展することを期待します．大会をお世話いただいた大阪府立大学の前川会員と石井会員，そしてご協力いただいた大阪市立大学および近畿支部の会員の方々に厚く御礼申し上げます．

９月末には，新たに設置された国の原子力規制委員会から，本学会を含む4つの関連学会に対して，大飯，敦賀，東通，志賀などの原子力発電所敷地内の断層調査を行う委員を推薦してほしいとの要請があり，本学会から活断層に詳しい10人の会員を推薦しました．これらの会員のご活躍はテレビ・新聞などで皆様よくご存知のところと思います．これまでに実施された現地調査に参加した本会推薦の委員は，大飯が岡田会員と重松会員，敦賀が藤本会員と堤会員，東通が佐藤会員と粟田会員です．国民注視の中，重責を担っていただいたこれらの方々他学会推薦の本会会員，およびこれからの調査に参加される本会会員の方々に厚く御礼申し上げます．

９月末に新たに５つのジオパーク（八峰白神（秋田），ゆざわ（秋田），銚子（千葉），箱根（神奈川），伊豆半島（静岡））が日本ジオパークに認定され，日本ジオパークは25地域となりました．また10月１日，本学会に環境変動史部会が新たに設立されました．

10月８～12日にアルゼンチンで開催された地学オリンピックで，日本チームは金メダル１個，銀メダル３個を獲得しました．参加された生徒さん達の健闘を称えるとともに，関係者の方々のご努力に敬意を表します．この月には社会人向けの地質調査研修や堆積学会と共催の津波堆積物現地ワークショップも成功裏に行われました．

イタリアでは，2009年のラクイラ地震の遺族や被害者たちが，地震前に「安全宣言」を出して地震の被害を大きくしたとして，危険度評価に関わった地質学者を含む科学者・防災担当者ら７人を過失致死罪に問う刑事裁判を起こしていましたが，10月に被告全員に対して禁錮６年と巨額の罰金の支払いを命じる判決が出ました．科学的根拠と学問的良心に基づいて判断した科学者に対し結果責任で刑事罰を科すことは，科学者の委縮と学問の衰退を招くと考え，本学会としてこの判決を憂慮する旨のコメントを11月２日に和英両文で発表しました．報道によると，本年１月18日に長文の判決理由書が公表され．「学者が政府のメディア操作に手を貸した」．「法に定められたリスクの検討がなされなかった」．「被告らの怠慢が市民の安心感を広げ．慎重に

対応していれば救えた命を失わせた」などが有罪判決の主な理由とのことです．

日本学術会議が発表した報告「高レベル放射性廃棄物の処分について」（9月11日）の内容については，学術会議が地層処分を不可能と判断したように誤解した報道がなされましたが，これに対して本学会としては，どのような方法をとる場合でも，放射性物質を長期的に国内で保持しなければならないことに変わりはなく，それにはこれまで我が国が培ってきた地層処分についての研究成果を継承・発展させることが重要であるとするコメントを11月22日に発表しました．

12月初旬にサンフランシスコで開催された米国地球物理連合（AGU）の秋季大会において，本会の巽　好幸会員（神戸大学）が同連合の火山・地球化学・岩石学部会からボーエン賞（N. L. Bowen Award）を受賞しました．心から祝意を表します．同会員は2003年に歴代最年少で日本地質学会賞を受賞し，本学会の評議員やIsland Arcの編集長を務めて本学会の運営にも大きく貢献してきましたが，今回はマグマプロセス及び地殻の進化を明らかにするための実験的研究，野外岩石学的研究，それらに関連する理論的モデル研究において，多数の本質的に重要な貢献を行ったこと，ホットスポット及び海洋沈み込み帯（特に伊豆・小笠原・マリアナ島弧系）におけるマグマ活動及びくさび型マントルにおけるマグマ移動システムの理解において中心的役割を演じたことが評価され，受賞に至りました．巽氏は同大会において「安山岩問題：なぜこの惑星は地球であるのか」という題で記念講演を行いました．また、米国地質学会（GSA）の環境・応用地質部門でも日本の研究者（非会員）がE. B. Burwell Jr. Awardを受賞しており，日本人の活躍が目立っています．

道路工事によって消滅の危機にあった福井県おおい町のモホ面露頭の保存を施工者に働きかけ，12月の工事終了時に露頭を残すことができたことは，本学会にとってクリスマスプレゼントでした．この露頭が危機にあることは，所用で大島半島を訪れた時に私が偶然発見し，地元の役場や施工者にこの露頭の学術的・教育的重要性を理解していただいて，露頭の保存が実現したものです．施工者と関係者の方々およびこの露頭保全の要望書にご賛同いただいた本学会理事の皆様に感謝します．

さて，本年9月には仙台で学術大会が行われ，10月にはやはり仙台で本学会やIUGS共催の地震・津波災害関連の国際シンポジウムが行われる予定です．また、タイ国地質学会との学術交流協定の延長交渉も進めているところです。今年も災害がなく平穏な年であるよう，そして会員の皆様がご健康で大きな研究・教育成果を挙げられるよう，お祈り申し上げます．また，本年1月から世界的な森林資源保護と省力化・効率化の流れに沿ってIsland Arcが完全電子化され，紙媒体での配布は廃止されますが，Island Arcのさらなる発展のため，新名称を公募しました．惑星地球フォトコンテストの作品募集や各賞の推薦受け付けも例年通り行われました．今年は，日本地質学会を皆さんで活発化し，多くの新しい仲間を迎えましょう．

日本地質学会第120年学術大会：2013年9月14日（土）～16日（月）東北支部東北大学にて開催

日本地質学会は，東北支部の支援のもと，東北大学川内キャンパスにおいて第120年学術大会（2013年仙台大会）を2013年９月14日（土）～16日（月）の日程で開催致します．プレ巡検は9月13日（金），ポスト巡検は９月17日（火）～18日（水）に開催する予定です．2011年３月11日に起こった東日本大震災から２年近くが経過しますが，被災地の多くは，まだ復興の途中にあります．しかし，日本や世界の皆様の暖かい援助のおかげで着々と復興の作業は進められ，震災の爪痕もだいぶ消えてきているように思われます．

この震災は我々に多くの教訓を残しました．地質学的研究による津波の規模の予測が東北地方で早くから行われていたにもかかわらず，その結果が行政や住民に理解・周知されず，十分な対策が取られませんでした．また，原子力発電所における活断層の問題も解釈の難しさを反映しています．このように，自然災害や防災に対する地質学の役割はより重要なものになってきています．仙台大会では，このような側面に切り込むことのできる震災関連のシンポジウムを企画しています．このシンポジウムは，市民にも開放し，地震，津波などの防災に関して地質学が果たすべき役割を訴えていくものにしたいと考えています．

また，地質学会は昨年，大韓地質学会と日韓学術交流協定の更新（５年ごと）を行うなど，国際的な協力関係も強化すべく活動しています．これらの背景から，仙台大会では国際的なテーマも取り扱い，東アジアにおけるテクトニクス関連のシンポジウムも企画しています．巡検として例年より多い13コースを準備していますが，そのうち４つのコースは地震・津波堆積物関連の巡検となっております．地質情報展は，従来通り，産業技術総合研究所地質調査総合センターと共同し，仙台市科学館と共催で開催する準備を進めております．

多くの会員の皆様が仙台大会に参加いただき，研究発表と議論，会員相互の交流と親睦が活発に行えるような環境の整備を，準備委員会一同，全力で整えるべく努力しております．仙台大会の成功により学会活動の活性化と新たな進展ができますように，皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます．

大会予告は，ニュース誌５月号を予定しております．

2013年仙台大会準備委員会
委員長　箕浦幸治
事務局長　西　弘嗣

トピックセッション募集　締切2013年3月11日（月）

日本地質学会行事委員会

第120年学術大会は，東北支部のご協力のもと，仙台市の東北大学川内キャンパスをメイン会場として2013年９月14日（土）～16日（月）に開催されます．今大会は震災復興の進む大都市仙台での開催となり，交通アクセスもよいため，多くの参加者が見込まれます．多くのセッション開催を可能にするよう，必要十分数の会場（部屋）を確保する予定です．ポスター会場については，近年のポスター発表重視の方向を満たすスペースを確保します．

トピックセッションを下記要領で募集します．**本大会も前回同様，シンポジウムの一般募集はありません．**シンポジウムは仙台大会準備委員会および学会執行部が企画します（２～３件のシンポジウムを開催予定）．

１．セッション概要

セッションは例年通り「レギュラーセッション」と「トピックセッション」に区分します．レギュラーセッションはこれまで通り，地域，地域間層序，海洋，砕屑物，炭酸塩岩，堆積，石油・石炭，破壊と変形，付加体，テクトニクス，古生物，噴火と火山，変成岩，岩石鉱物鉱床，情報，環境，応用，地学教育，第四紀などのタイトルを予定しています．レギュラーセッションは，各専門部会からの選出委員により構成される行事委員会（３月下旬開催予定）で決定します．

２．トピックセッション募集

トピックセッションは，広く地質学の領域に属し，これから新分野あるいは注目すべき分野になりそうな内容を扱うものとします．**形式はレギュラーセッションと同じです（口頭発表およびポスター発表；口頭発表は15分間で，進行も15分刻み）**．多くの参加者が見込まれる，魅力あるセッションを積極的にご提案ください．締切後，行事委員会が応募内容を慎重に検討し，最大８件程度のトピックセッションを採択する予定です．

なお，同一世話人（または研究グループ）から毎年同じようなトピックセッションが提案され，それを採択するのは，トピックセッションの趣旨（これから新分野あるいは注目すべき分野になりそうな内容を扱う）に反するのではないか，という声が行事委員会に届いております．むしろ継続性の高い内容はレギュラーセッション化を検討することが可能かもしれませんので，行事委員会にご相談ください．

３．トピックセッション招待講演の変更点

トピックセッションの招待講演について，今大会から次のように変更しますのでご注意ください．

１）これまで招待講演は１セッションにつき最大，会員１名，非会員１名というルールでしたが，種別による人数制限に

は学術的意味がありません．したがって，今大会から**招待講演は１セッションにつき最大２名とし，会員，非会員を問わない**ことにします．なお，世話人が「自分を招待する」ことはこれまで通り認めません．

2）これまで発表時間（質疑応答を含む）は招待講演も15分でしたが，今大会からは**世話人が15分または30分のいずれかを選択できる**ようにします．なお，**１人の発表者（招待講演者を含む）が１つのセッションで口頭発表できるのは１件とする**というルールも同時に設けます（下記補足説明を参照）．

3）招待講演者の**選定理由とその裏付けとなる情報（セッションテーマに関連した代表的な論文，著書等）が必要**になります．

4）会員招待講演者が招待講演の他に非招待の発表を１件申し込む場合，**発表負担金**はかかりません．さらにもう１件（招待講演の他にセッションで２件）発表する場合は負担金がかかります（下記参考１：補足説明を参照）．

４．応募方法

トピックセッションを応募する会員は，次の項目内容を日本地質学会行事委員会宛（main@geosociety.jp）にe-mailでお申し込み下さい．

1）代表世話人（＝連絡責任者，会員に限る）の氏名（和・英），所属（和・英），メールアドレス，緊急時の電話番号
2）セッションタイトル（和・英）
3）共同世話人の氏名（和・英），所属（和・英），メールアドレス
4）趣旨・概要（400～600字）
5）招待講演の有無
有の場合
5-1）招待講演者の氏名（和・英），所属（和・英），会員/非会員の別
5-2）招待講演の発表希望時間（15分または30分）
5-3）招待講演者の選定理由（100～200字）
5-4）選定理由の裏付けとなる，セッションテーマに関連した代表的な論文・著書等
6）他学協会との共催希望の有無，有の場合は名称
7）時間（原則半日（３時間）以内ですが，詳細はお問い合わせください）
8）地質学雑誌またはIsland Arcへの特集号計画の有無
9）その他（英語使用等）

５．採択方法

応募多数の場合や他セッションと内容が重複する場合，行事委員会は学術的なインパクトや緊急度を考慮して採択を決定します．採択されたトピックセッションはニュース誌５月号（５月末発行予定）で公表し，講演募集を行う予定です．演題登録（講演申込，講演要旨投稿）締切は７月上旬を予定しています．

６．非会員招待講演者の参加登録費

非会員招待講演者に限り参加登録費を免除します（ただし要旨集は付きません）．

７．世話人が行う作業（７月）

代表世話人には，講演要旨校閲，講演順番決定などの作業を７月中旬～下旬に行っていただきます（詳細は採択後にお知らせします）．**その期間，代表世話人は電子メールで添付ファイルを送受信できるようにして下さい．**野外調査や乗船等で通信が制限される場合は，共同世話人（代理）にあらかじめ作業を依頼し，その旨を行事委員会に必ず報告してください．

参考１　招待講演に関する補足説明（行事委員長より）

トピックセッションの招待講演時間については，これまで世話人等から「招待講演には（15分ではなく）もっと長い時間を認めてほしい」という声がしばしば寄せられました．おもしろいサイエンスをやっている研究者を招待し，研究をじっくり聞きたいという世話人等の気持ちは私も理解します．招待講演を充実させることは，セッションの魅力を高め，ひいては学術大会全体の魅力を高める方向に作用すると期待できます．他方，限られた会期と会場において，特定の研究者や研究グループの発表によってセッションが占められてしまう事態も避けなければなりません．そのため「世話人が15分または30分のいずれかを選択できる」ことと同時に「１人の発表者（招待講演者を含む）が１つのセッションで口頭発表できるのは１件とする（同一セッションでの口頭２件発表は不可）」という新ルールも設けることにしました．この**新ルールの詳細については本誌５月号（大会予告記事）に掲載する予定です**．

発表負担金については，これまでトピックセッション招待講演にも「セッション発表１人１件，ただし発表負担金を支払えば２件可能」のルールを適用してきました．そのため，招待講演者が招待講演以外にもう１件（非招待講演として）発表するときは発表負担金が必要でした．しかし，学会が招待する講演を発表負担金のカウントに含めるのは適当ではないという声が行事委員からありました．これは至極妥当な意見だと考えられますので，**今大会から招待講演は発表負担金の枠外として扱う**ことにします．

ご不明の点があれば行事委員会（main@geosociety.jp）までお気軽にお問い合わせください．

参考２　企画中のシンポジウム

・東日本大震災の発生時（あのとき），現在（いま），今後（これから）について，地質学的見地から考えるシンポジウム
・日本の地質とアジアの地質の関連に関する国際シンポジウム

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

日本学術会議主催 学術フォーラム

「自然災害国際ネットワークの構築にむけて：固体地球科学と市民との対話」

日時：平成25年２月１日（金）13:00～18:00
場所：日本学術会議講堂（東京都千代田区乃木坂；地下鉄千代田線，乃木坂下車１分）
コーディネーター：北里　洋（第三部会員），佐竹健治（連携会員），松本　良（連携会員），千木良雅弘（連携会員），小川勇二郎（特任連携会員）
後援：日本地質学会ほか
プログラム：
13:00-13:05：挨拶（５分）：北里　洋（日本学術会議会員，独立行政法人海洋研究開発機構・IUGS分科会委員長）：（本フォーラムの経緯）
13:05-13:10：問題提起（５分）：小川勇二郎（日本学術会議特任連携会員，IUGS-EC理事）：本フォーラムの狙い
13:10-13:40：国際統合自然災害研究（IRDR）と政策上の問題点（30分）：竹内邦良（日本学術会議特任連携会員，水災害・リスクマネッジメント国際センター（ICHARM）所長）：自然災害研究の国際的な現状と問題点．今後の課題．
13:40-14:00：地震と古地震，津波：佐竹健治（連携会員，東京大学地震研究所教授）：東北沖地震と津波の概要，研究上の問題点，今後の課題．アーリーウォーニングの状況．
14:00-14:20：津波堆積物：後藤和久（東北大学　災害科学国際研究所災害リスク研究部門准教授）：津波堆積物研究所重要性，今後の課題．国際情報共有の問題点．
14:20-14:40：津波工学：佐藤慎司：（東京大学大学院工学研究科基盤工学教授）：（仮題）東北沖地震による津波被害の工学的側面とハード・ソフト対策

14:50-15:10：活断層：佃　榮吉（連携会員，独立行政法人産業技術総合研究所理事；G-EVER委員長）：活断層研究の現状と，国際組織の構築の問題点
15:10-15:30：地殻変動：池田安隆（東京大学大学院地球惑星科学専攻教授）：巨大地震のテクトニクス（大地形論）と世界規模の地殻変動
15:30-15:50：地すべり：千木良雅弘（連携会員，京都大学防災研究所教授）：地すべり災害研究の問題点
15:50-16:10：海底地すべり：川村喜一郎（山口大学大学院理工学研究科自然科学基盤系学域准教授（地球科学分野））：海底地すべり災害の国際研究の状況と問題点
16:10-16:30：火山災害：高橋正樹（日本大学文理学部教授地球システム科学科教授）：火山災害の国内および国際的研究の現状と問題点
16:30-16:50：火山災害とG-EVER：宝田晋治（産業技術総合研究所　地質情報研究部門；G-EVER幹事）：アジア太平洋地域大規模地震・火山噴火リスク対策（G-EVER）活動と次世代型火山災害予測システム

http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html

J-DESC陸上掘削部会「地学雑誌特集号：陸上掘削科学の新展開」出版記念シンポジウム

日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）陸上掘削部会では，地学雑誌より，特集号「陸上掘削科学の新展開」を刊行することになりました（2013年４月刊行予定）．

地球掘削科学は災害の軽減や資源問題の解決に貢献するだけでなく，新しい地球観の構築という科学目標の達成において多大な貢献を果たしてきました．J-DESC陸上掘削部会では，これまでの日本における陸上科学掘削の成果のレビューに加え，現在進行中および将来実施予定の陸上科学掘削について総括した特集号「陸上掘削科学の新展開」を刊行することになりました（地学雑誌2013年２号（４月出版）を予定）．これを記念して，各論文のダイジェストの紹介を中心とするシンポジウムを開催いたします．

来年11月には，今後のICDPの科学計画を議論する会議であるICDP Science Conference 2013が開催されますので，同会議に向けての準備の第一弾という位置づけでもあります．

つきまして，多くの関係者の方々に御参加いただけますようお願いいたします．

（J-DESC陸上掘削部会執行部一同）

日時：2013年２月23日（土）13～18時
場所：JAMSTEC東京事務所
［講演プログラム］
13:00-13:10．井龍康文：シンポジウム開催にあたって
13:10-13:35．新妻信明：我が国におけるICDP以前の陸上学術ボーリング計画検討の歴史
13:35-14:00．公文富士夫：日本における湖沼掘削
14:00-14:25．廣野哲朗：断層掘削研究によって明らかになった地震時の断層滑り挙動とその物理化学的側面
（20分休憩）
14:45-15:10．井龍康文：礁／炭酸塩プラットフォーム堆積物の掘削試料が明らかにする地球環境変動
15:10-15:35．藤原　治：陸上掘削試料による津波堆積物の解析
15:35-16:00．田辺　晋：テクトニックな沈降域における沿岸河口低地の地層形成：越後平野の沖積層を例として
（20分休憩）
16:20-16:45．長沼　毅：陸上深部地下生物圏の研究－持続的文明の視座から
16:45-17:10．中田節也：火山体掘削の科学的成果と今後の展望
17:10-17:35．村岡洋文：延性帯地熱系の把握と涵養地熱系発電利用への展望
17:35-18:00．総合討論

お問い合わせ：J-DESCサポート
海洋研究開発機構　地球深部探査センター内
E-mail：info@j-desc.org
Tel：045-778-5271

下記サイトもご参照ください．
http://www.j-desc.org/m3/events/130223_rikujo_sympo.html

ひょうご恐竜化石国際シンポジウム

国際シンポジウム「白亜紀前期の恐竜研究最前線」

平成18年の丹波の恐竜化石の発見を契機に，人と自然の博物館では篠山層群の化石発掘を進め，恐竜化石を活かした地域づくりに取り組んできました．2013年３月16日，17日の２日間にわたって国際シンポジウムと関連事業を開催します．みなさまのご参加をお待ちしております．

主催：ひょうご恐竜化石国際シンポジウム実行委員会
後援：日本地質学会ほか
日程：2013年３月16日（土）10:00～16:00
会場：兵庫県立人と自然の博物館ホロンピアホール
参加費：無料
申込方法：下記URLからメール，FAX，郵送にてお申し込みできます
申込締切：２月22日（金）
詳細：http://hitohaku.jp/top/dinosaur_symp.html
（プログラムの詳細は，WEBをご参照ください）

関連事業：2013年３月17日（日）
会場：丹波竜化石工房／山南住民センター（丹波市山南町谷川1110）
◇サイエンスカフェ　丹波市恐竜復元画プロジェクト「篠山層群の化石から白亜紀の生き物を復元する」
◇恐竜化石を活かした地域づくりフォーラム
◇ワークショップ「恐竜復元画を描こう」

◇化石発掘体験（事前申込不要）

問合せ先
〒669-1546　三田市弥生が丘６丁目
兵庫県立人と自然の博物館　生涯学習セミナー係
電話：079-559-2003（開館日9:00～17:30）
FAX：079-559-2033
E-mail：seminar@hitohaku.jp

第８回「海洋と地球の学校」のお知らせ

独立行政法人海洋研究開発機構では，海洋科学技術の最先端のテーマを設定し，大学生及び大学院生を対象に，21世紀の海洋科学技術の研究・開発を担う人材育成に資することを目的として，「海洋と地球の学校」を開催しています．

カリキュラムは宿泊型の研修形式とし，研究者による講義と研究施設の見学等のほか，野外実習等を実施することで，大学の講義では得られない海洋科学に関する総合的な学習の場を提供することを目指します．

開催日：平成25年３月19日（火）～23日（土）
場　所：高知県立青少年センター，のいちふれあいセンター，室戸周辺地域（野外巡検）
テーマ：過去をひも解き，現在を知る　～南の海から地球を考える～
対　象：大学生及び大学院生（短大，高等学校専攻科を含む）（応募者数により一般社会人の参加も可能）
応募方法：「海洋と地球の学校」参加申込フォームに必要事項を記入しお申し込み下さい．
応募締切：平成25年３月12日（火）必着
＊応募者多数の場合は，３月12日以前でも締切る場合があります．

詳細は，以下のホームページをご覧ください．
http://www.jamstec.go.jp/j/pr/school/008/index.html
なお，聴講生についてもあわせて募集しております．

【お問い合わせ先】
独立行政法人海洋研究開発機構　広報課
海洋と地球の学校 事務局
〒237-0061　神奈川県横須賀市夏島町２番地15
TEL：046-867-9059（金井）
E-mail：kaiyo-gakko@jamstec.go.jp

CHIKYU+10 国際ワークショップ開催

日時：2013年４月21日（日）～23日（火）
場所：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋）（予定）
概要：2013年10月から10年間の計画で始まる新しいIODP（International Ocean Discovery Program）において「ちきゅう」が実施するべき科学プロジェクトに関する国際的な議論を行います．下記ホームページで情報を更新していきますので，URLのご登録をお願いします．

今後のスケジュール
2013/1/7-31：White paperの受付
2013/1/7-4/5：Registration
2013/4/21-23：CHIKYU+10国際ワークショップ
詳細：http://www.jamstec.go.jp/chikyu+10/

Decadal planning for the deep sea drilling vessel *Chikyu* of the Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC) is commencing. *Chikyu*, a unique resource for science, will continue to recover deep samples and conduct in situ monitoring beneath the world's oceans for the International Ocean Discovery Program (IODP) beginning in October 2013.

The international workshop CHIKYU +10 invites researchers to discuss priority projects for *Chikyu*'s next decade of exploration. The workshop will be held 21-23 April 2013 in Tokyo, assisted by IODP Management International. Thematic discussions will highlight accomplishments of completed Chikyu Integrated Ocean Drilling Program expeditions, current Chikyu deep riser proposals, new ideas to be submitted as white papers, and inspiring keynote talks. The Steering Committee has identified five thematic as well as blue sky areas, for which short white papers will be accepted during January 2013. Travel support for the workshop is under discussion by JAMSTEC, and other national and consortium IODP sponsors. Registration, applications for funding and submission of white papers will open on 7 January 2013. CHIKYU+10 will emphasize participation by early career researchers. The final workshop agenda will be published by 1 March 2013.

第50回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文の募集

主催　日本アイソトープ協会
日本地質学会ほか　共催
会期：2013年７月３日（水）～７月５日（金）
会場：東京大学弥生講堂（東京都文京区弥生１-１-１）

(1) 内容：それぞれの研究分野において，専門的な成果を得た放射性同位体，安定同位体や放射線の利用研究，およびこれら利用の基礎となる研究．少なくとも一部に未発表の部分が含まれていること．
(2) 発表者の資格：発表者の一人が本発表会の主催，共催又は協賛学・協会の会員であること．
(3) 発表申込区：WEBサイト参照
(4) 発表形式：口頭発表またはポスター発表．
(5) 口頭発表時間：１件15分（発表12分，討論３分）
(6) ポスター発表：１件の発表に展示パネル（横115 cm×縦170 cm）１枚を用意します．
(7) 申込方法：WEBサイト参照
(8) **申込締切：2013年２月28日（木）**
(9) 講演要旨：口頭発表，ポスター発表とも，１件につきＡ４判用紙１枚．
(10) 講演要旨原稿締切：2013年４月12日（金）
(11) 参加費：2,000円（学生は無料），要旨集　3,000円（消費税含む）

問合せ先
アイソトープ・放射線研究発表会事務局
日本アイソトープ協会
学術振興部　学術・出版課　須貝
〒113-8941　東京都文京区本駒込２-28-45
TEL：03-5395-8081　FAX：03-5395-8053
E-mail：gakujutsu@jrias.or.jp

この他詳細は，http://www.jrias.or.jp/を参照下さい．

公募　教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

国立極地研究所 研究教育系・地圏研究グループ助教公募

職名・公募人員：助教　１名
任期：５年間．
所属：研究教育系・地圏研究グループ
研究分野：地質学，地球化学
研究・職務内容：本公募では，南極大陸および関連する大陸地殻の進化に関わる地球ダイナミクスの研究を地球化学的および地球年代学的観点から進める方を求めます．特に，国立極地研究所が保有する分析装置を運用し共同利用に供することで所外の研究者との連携や共同研究を推進するとともに，新しい分析手法の開発とその応用研究にも積極的に取り組む方が望まれます．また，国立極地研究所

は南極地域観測事業実施の中核機関であること，大学共同利用機関及び総合研究大学院大学基盤機関であることをよく理解し，極域観測の実施，国内外の共同研究への対応や大学院教育に意欲をもって当る方を求めます．
応募資格：博士の学位を取得または採用時までに取得見込みであること．
提出書類：（1）応募書（カバーレターに相当するもので　①氏名　②性別　③生年月日　④学位　⑤所属・職　⑥所属先住所・電話番号　⑦現住所・電話番号　⑧電子メールを記載する）（2）履歴書（大学卒業以降の学歴，職歴，賞罰，資格は必ず記載し，顔写真を添付する．書式は自由．）（3）研究業績目録（①学位論文，②原著論文，③その他に分類して目録を作成する．②，③については査読を受けたものと受けていないものを区別する．）（4）主要論文５編以下の別刷り（またはコピー）を各１部（5）代表者としての科学研究費等外部資金獲得の実績表（名称，年度，金額）（6）これまでの研究・教育活動の概要（Ａ４版用紙2枚以内とする）（7）今後の研究，教育，極域観測の発展，将来の新研究分野開拓への抱負（Ａ４版用紙２枚以内とする）（8）応募者について意見を聞ける方２名以上の氏名と連絡先（9）推薦書（推薦書がある場合）
応募締切：平成25年２月22日（金）17時必着
着任時期：平成25年６月以降の早い時期を予定．
応募書類提出先：
〒190-8518　東京都立川市緑町10-３
情報・システム研究機構 極地研・統数研
統合事務部 企画グループ（極地研担当）
人事担当
問合せ先：
（1）研究・職務内容に関すること
国立極地研究所　研究教育系・教授
本吉洋一
電話：042-512-0603
E-mail：motoyosi@nipr.ac.jp
（2）事務手続きに関すること
極地研・統数研統合事務部 企画グループ（極地研担当）人事担当
電話：042-512-0610
FAX：042-528-3146
E-mail：jinji@nipr.ac.jp

その他公募の詳細は，http://www.nipr.ac.jp/recruit/rec_faculty/20130222geo.html をご参照ください．

名古屋大学大学院 環境学研究科地球環境科学専攻（地球惑星科学系）教員公募

担当講座：大学院環境学研究科地球環境科学専攻（地球惑星科学系）地質・地球生物学講座（岩石学・構造地質学分野）
職名および人員：准教授１名

着任予定時期：平成 25年９月１日以降のできるだけ早い時期

公募の趣旨：地質・地球生物学講座では，地球表層～マントルを構成する物質の形成史とそのメカニズム，テクトニクス，生物と地球環境の相互作用等の素過程を解明し，地球史を高精度で復元することにより，過去および現在の地球像を正確に描き出すとともに，地球環境変動の未来像の構築に向けて適切な提言をすることを目指します．詳細はホームページを参照してください．地質・地球生物学講座では，同講座の教員*並びに地球史学講座の教員と協力して，岩石学・構造地質学分野の研究・教育を強力に推進して頂ける准教授を募集します（講座の現教員の年齢構成を考えると若い方が望ましい）．担当していただく授業は，大学院環境学研究科，理学部地球惑星科学科，全学教育の科目です．

応募資格：
（1）博士の学位を有すること
（2）岩石学・構造地質学の研究に実績があり，その研究・教育に意欲があること
（3）野外調査に関する教育と研究指導ができること
提出書類：
（1）履歴書（写真貼付，e-mailアドレスを連絡先として明記のこと）
（2）これまでの研究・教育活動の経過について要約した文書（2,000字程度）
（3）研究業績目録（以下のA，B，C，Dに分類したもの）A．査読のある論文および総説（可能なら被引用数及び用いたデータベースを明記すること），B．査読のない論文および総説，C．著書，D．その他特に参考となる出版物．
（4）今後の研究・教育の抱負についての文書（2,000字程度）
（5）外部資金獲得状況，受賞歴
（6）応募者について意見を伺える方２名の連絡先
（7）主な研究論文の別刷またはコピー（５編程度）

応募締切：平成25年３月18日（月）必着

書類の送付及び問い合わせ先
〒464-8601　名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院環境学研究科
地球惑星科学系長　山本鋼志
電話：052-789-2522
e-mail：apply-geol@eps.nagoya-u.ac.jp

その他，詳しくはWEBをご参照ください．
http://www.env.nagoya-u.ac.jp

公募結果
金沢大学理工学域自然システム学系テニュアトラック助教公募
Robert G. Jenkins氏（平成24年12月１日着任）

表紙紹介

第３回惑星地球フォトコンテスト入選作品：「しらひげの滝　（青い池の上流には滝があった）」

写真：宇津木　圭（北海道）
撮影場所：北海道上川郡美瑛町字白金しらひげの滝

【撮影者より】
北海道の美瑛白金では青い池が有名になりましたが，この青い池の上流はどのようになってるかと思い砂利道を進んで行くと温泉街に到着する事ができます．川の上にかかる橋の上から下を覗き込むとそこは絶景が広がってました．白い滝と青い滝壺が存在してます．さらに水質のせいか川底の大きな石が白い石に変化しております．とても驚く白ヒゲの滝です．青と白の不思議な世界が広がります．しらひげの滝から下流には青い池が数年前に出来ました．とてもブルーが美しく本当に驚く場所です．写真のしらひげの滝は滝壺が青白く不思議な場所です．流れ落ちる滝も青白く季節によって色が変わったり太陽の光線の状態でも変わる神秘的な雰囲気が広がります．

【審査委員長講評】
この作品をよく見ると岩石の間から滲み出した伏流水がしらひげの滝を作っていることがわかります．この伏流水は十勝連峰に源を発するもので，岩石が白くなっているのも，水が青い原因も水に溶け込んだ硫黄などの成分が関係していると思われます．

しらひげの滝の上流にあたる十勝岳大正火口内には昇華硫黄の鉱床が形成されています．1962年の噴火までに約２万１千トンの硫黄が生産されました．

学協会・研究会報告

第29回国際堆積学会参加報告：その１

鈴木寿志（大谷大学文学部）
三上禎次（龍谷大学，大谷大学真宗総合研究所）
尾上哲治（鹿児島大学理工学研究科）

第29回国際堆積学会（International Association of Sedimentologists，略称IAS）がオーストリー国シュラードミング市で2012年９月10日～17日にかけて開催された（図１）．レオーベン鉱山大学応用地球科学・地球物理学部が中心となって準備を進め，シュタイヤーマルク州の小さな町に世界中の堆積学研究者が集った．学術大会は９月10日～13日に行われ，その前後に野外地質巡検と特定課題の勉強会であるショートコースが組まれた．ここではまず学術大会の様子を報告したい．後日その２で野外地質巡検について報告する予定である．

学術大会（９月10日夜～13日）

第29回国際堆積学会の講演発表とポスター発表が９月10日の夜から13日まで開催された．９月10日は，19：30から開会式が行われ，主催大学の開催委員長であるHans-Jürgen Gawlick教授の開会の辞にはじまり，国際堆積学会会長Poppe de Boer教授の挨拶に加えてSedimentology誌の最優秀論文賞の授与が行われた．その後，21：00頃からアイスブレーカー・パーティーとなった．

学術大会本番は９月11日から13日までの３日間に，シュラードミング会議場（図２）とスポーツホテル・ロイヤーの7会場に分かれて行われた．主題は14テーマにわたり，それらの下に37の分科会が設定され，堆積学の分野ごとに世界中の専門研究者が集い，活発に意見交換された．以下に筆者らが参加した分科会について報告する．

筆者らは，テーマ８のセッション２「歴史・地質記録における津波堆積物」，テーマ８のセッション４「三畳紀後期～末期のイベント」，テーマ10のセッション１「海から山へと取り込まれたチャート質堆積岩」の分科会に参加した．津波堆積物の分科会では，まずアバディーン大学のDawson教授による津波堆積物の同定に関する基調講演が行われた．またワルシャワ大学のLuczynski氏によるウクライナのシルル系古津波堆積岩の報告，英国地質調査所のTappin教授によるハワイ諸島における火山体崩壊に伴う津波堆積物の検討結果が示された．一方，ポーランド地質調査所のPiotrowski氏は古くから伝わる伝説や歴史記録，教会のレリーフにみられる津波の記録からかつてバルト海沿岸の町を津波が襲ったことを考察した．2011年３月11日の東北沖太平洋地震に伴う津波については，千葉工業大学（現在，東北大学）の後藤和久准教授により仙台平野に広がった砂質津波堆積物と三陸海岸の礫質津波堆積物の総括的検討結果が示された（図３）．また京都大学の志岐常正名誉教授は被災地で観察された船や自動車など浮いて移動したものを津波堆積物として考察する必要性や反砂堆構造から推定される射流の破壊力を指摘した．またポスター発表では筆者のうち三上が2011年津波堆積物の多様性について報告し，鈴木が砂質津波堆積物の粒度分析結果と含まれる貝類の検討結果を示した．ポーランド，ミツキェヴィッチ大学のSzczucinski氏は2004年のインド洋津波の堆積物がどのような変化を示すか，その保存過程について時間を追って追跡した観察例を報告した．

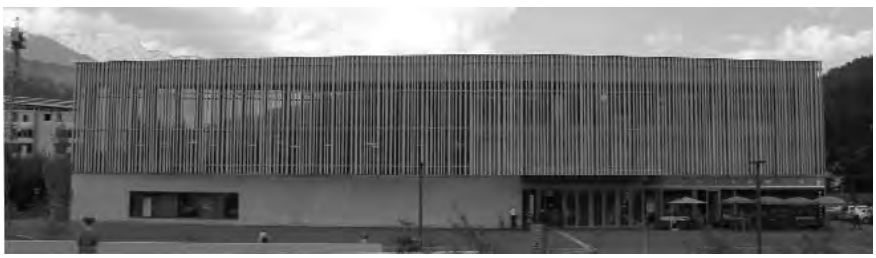
三畳紀後期の分科会では，主に三畳紀・ジュラ紀境界での絶滅事件に関する発表が多くなされた．学会前巡検でジュラ系基底の国際境界模式層序・位置（GSSP）を訪れていたこともあり，分科会での議論は活発に行われた．発表内容は，三畳紀後期からジュラ紀前期にかけての炭素同位体比曲線の地域間対比に関するものが多かった．スウェーデンのルンド大学のLindström准教授による，三畳紀末大量絶滅と大規模な森林火災の同時性を議論した発表など興味深い講演もあった．筆者のうち尾上が行った美濃帯三畳紀新世チャートの隕石衝突による白金族元素異常とオスミウム同位体比に関するポスター発表は，本分科会の中で比較的注目度が高かったように感じた．日本の地質材料を用いた研究や新しい研究手法が，三畳紀新世のみならず隣接する地質時代の研究にもブレイクスルーをもたらす可能性を予感した．テーマ８セッション３の「ペルム紀・三畳紀境界」の分科会では，英リーズ大学のWignall教授が日本のチャート研究の重要性を力説しておられたが，ヨーロッパの堆積学の動向を知り，国内の材料の重要性を知るよい機会となった．

図１　第29回国際堆積学会のロゴ．

チャート質堆積岩の分科会では，まずフランスのDe Wever教授による基調講演が行われた．その中で彼はモンスーンの発達が湧昇流を誘発し，放散虫岩の堆積をもたらすとし，特に中生代の古地理から推定されるモンスーン域と中生代放散虫岩の分布との関連を議論した．興味深い講演として，Kremer氏によるポーランドのシルル系黒色チャートの形成過程の講演があった．彼女は底生のマット状藍藻が放散虫を含む堆積物の珪化を促進させるとし，黒色チャートの形成場が太陽光の到達する浅海底であったとした．また日本からの講演として，筆者のうち三上が丹波地体群のチャートの結晶度と錐歯動物の色指数との関連を示し，鈴木が木曽川河畔に露出する赤色チャートの色の獲得時期についての講演を行った．

学術講演に加えて一般向け普及講演がチュービンゲン大学のFrisch教授により９月13日の晩に行われた．開催国であるオーストリーに関連する内容で，東アルプスの隆起運動が新生代層の堆積相にどのように反映されているかを解説した．

また９月12日の夜には学会主催の食事会が催された．オーストリーの郷土料理を楽しみながら，地元の民族衣装をまとった楽団の陽気な音楽に，会場は熱気に包まれた．



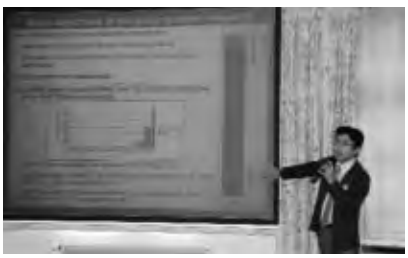


図２（左）主要会場となったシュラードミング会議場．図３（右）津波堆積物の分科会にて講演する後藤和久准教授．

第1回IGCP589 “Development of the Asian Tethyan Realm: Genesis, Process and Outcomes” 国際シンポジウム参加報告

宮東　照（福岡大学理学研究科地球圏科学専攻）

2012年10月27日～11月１日にかけて，標記のシンポジウムが中国西安市で開催された．IGCP589は2010年に終了したIGCP516の後継プロジェクトであり，金小赤（中国地質科学院地質研究所），上野勝美（福岡大），Graciano Yumal Jr.（フィリピン国立フィリピン大理工学部），Pol Chaodumrong（タイ地質鉱産局地質調査部門）の４氏をコリーダーとして今年から5年計画で始まった．その目的はテチスに関連したアジア地域で学際的な研究を推進することによって，テチス域発達史のさらなる制約条件を見出すことである．今年のシンポジウムは，代表コリーダーであるの金小赤教授を中心とした組織委員会により主催され，９カ国（中国，フィリピン，タイ，香港，台湾，モンゴル，ポーランド，オーストラリア，日本）から約30名の参加者があった．日本からは，波田重熙（神戸女子大），原英俊（産総研），久田健一郎，鎌田祥仁（筑波大），小松俊文（熊本大），中川昌治（高知大），宮東照（福岡大）の７名が参加した（順不同・敬称略）．

シンポジウムおよびビジネスミーティング（10月27，28日）

シンポジウムは，10月27日，28日の２日間，西安市内の西安賓館で行われた（写真１）．金小赤教授による開会の挨拶の後，中国北西大学の董云鵬氏の基調講演，それに続きテクトニクス，古生物学，岩石学，層序学，堆積学など多岐にわたる分野の発表（口頭発表16件，ポスター発表11件）があった．基調講演では，ポストシンポジウム巡検でまわる秦嶺造山帯について発表があり，巡検参加者にとってはこの複雑な変成帯についての良い「事前学習」となった．今回，シンポジウムが開催された場所が北中国地塊と南中国地塊の衝突帯付近ということもあり，基調講演以外にも秦嶺造山運動やヒマラヤ造山運動など数多くのテクトニクスに関する発表がなされ，熱い議論が交わされていた．２日目の午後にはポスター発表が行われた．発表者は5分間を与えられ，各々ポスターの前で説明を行った．

今回のシンポジウムには，イランやミャンマーからも参加申し込みがあったということだったが，それぞれの国の情勢のためか，直前のキャンセルとなった．本IGCPプロジェクトの目的にもあるように，アジアのテチス域における発達史の解明には，様々な地域の地質情報を基に議論を深める必要がある．そのためにも，次回シンポジウムではこれらの国々からも参加者があることを願うばかりである．

ポスター発表の後にビジネスミーティングが開かれた．ビジネスミーティングでは，今後の活動方針と来年以降のシンポジウム開催国について話し合われた．その結果，来年は10月に第２回目の国際シンポジウムをフィリピンで開催することが決定された．また，2013年，2014年については，タイ，日本のいずれかで開催することとなった．

ポストシンポジウム巡検（10月29日～11月1日）

10月29日～11月１日の４日間，金小赤教授の案内による秦嶺造山帯のジオトラバース巡検が行われた．秦嶺造山帯は，北中国と南中国の衝突帯であり，北から北中国地塊，カンブリア紀－シルル紀の島弧である北部秦嶺帯，前期デボン紀－三畳紀の小大陸片である南部秦嶺地塊，南中国地塊の地体構造ユニットからなり，それぞれのユニットごとに特徴的な地質体を見ることができる．北中国地塊と北部秦嶺帯はシルル紀に，北部秦嶺帯と南部秦嶺地塊は前期デボン紀に，南部秦嶺地塊と南中国地塊，すなわち北中国と南中国は中期三畳紀に衝突したとされている．この巡検には，19名が参加した．ちょうど紅葉が美しい時期であり，移動中は車窓から紅葉を楽しむことができた．また，巡検ルートが標高の高いところ（2000 m以上のところもあった）に設定されていたため，朝晩の冷え込みは大変なものであった．

１日目は西安を出発し，秦嶺造山帯と北中国地塊の境界付近にあたる地塁構造，上部原生界の変成岩類，オルドビス系からシルル系の海洋性岩石類のほか，北部秦嶺帯を構成する堆積岩類や変成岩類，南部秦嶺地塊の礫岩などを見学した．午前中は天候が悪く，最初のストップで地塁の形状を確認するはずだったが，残念ながら視界不良でそれができなかった．また，海洋性岩石類の露頭では変形した玄武岩を観察したが，その形状から枕状溶岩であるという案内者の説明に参加者から疑問の声が上がる一場面もあった．

２日目は，延性剪断帯に発達した金鉱床，白亜系の赤色礫岩，デボン系の砂岩層，沈み込み・大陸衝突に由来する三畳系の花崗岩類，南部秦嶺地塊の基盤岩である原生界のミグマタイトと片麻岩，カンブリア系－オルドビス系の大理石を見学した．延性剪断帯の母岩は，１日目に見たデボン紀の砕屑岩であるとされているが，なぜここに金鉱床が発達したのか説明がなく，どのような過程で形成されたのか疑問に残った．川沿いに好露出した原生代のミグマタイトと片麻岩は，その母岩自体は原生代のものであるが，変成年代は三畳紀であるとのことである．片麻岩の露頭では，数cmサイズの柘榴石が見られた．参加者は（筆者も）露頭の観察を行うよりも，河原からその柘榴石を含んだ礫がないか探すのに真剣だった．

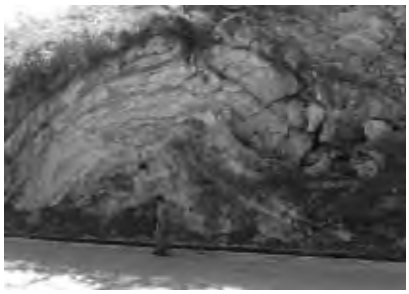


写真１（上）西安賓館での集合写真．
写真２（下）デボン系層状石灰岩露頭でみられる褶曲．

３日目は，三畳系の花崗岩類（一部の花崗岩はラパキビ組織を示す），南部秦嶺地塊を構成する最上部原生界の塩基性火成岩類，デボン系の千枚岩，砕屑岩類，層状石灰岩，下部石炭系の結晶質石灰岩，北部秦嶺帯に属する原生界とオルドビス系－シルル系の片麻岩を見学した．デボン系の層状石灰岩の露頭では，石灰岩を研究対象としている筆者は化石が見られるか楽しみにしたのだが，浅海性の石灰岩ではなかったので残念ながら見つけられなかった（コノドントが産出したという報告はある）．むしろ参加者はそこで見られた大規模な褶曲，スラストを熱心に観察していた（写真２）．

４日目は，北部秦嶺帯の要素である上部原生界の変成岩類，北中国地塊に属する白亜系の赤色礫岩・砂岩層，原生界－オルドビス系の変成岩類とペルム系砕屑岩類の不整合，先カンブリア紀－カンブリア紀境界前後で堆積したと考えられているダイアミクタイトを見学した．ダイアミクタイトの露頭では，泥質岩中に様々な大きさのドロップストーンがみられ，ラミナが乱されている様子が観察できた．このダイアミクタイトは全球凍結もしくは直後に形成されたと説明を受け驚いた．

最後に

今回のシンポジウムおよび巡検では，母国語以外の言葉で意見や考えを人に伝えることの難しさを痛感し，改めて英会話の重要さを思い知った．また，以前IGCP516のシンポジウムで中国，昆明を訪れたことがあるが，そことは違った文化（特に料理）を体感することができたことも収穫の一つであった．金小赤教授をはじめ，シンポジウムや巡検を企画，運営していただいた方々に，この場をお借りして感謝を申し上げます．

TOPIC　日本で唯一のモホ面露頭の保全について

日本地質学会会長　**石渡　明**

福井県大飯郡おおい町の大島半島には夜久野（やくの）オフィオライトが分布しており，県道241号線（赤礁崎（あかぐり）公園線）の大島トンネル北口から約200m北西の浦底（うらぞこ）地内の露頭（写真１）には，そのモホ面（モホロビチッチ不連続面，地殻とマントルの境界）が露出しています．これは，道路沿いで容易に観察できるモホ面の露頭としては日本国内で唯一のものであり，かんらん岩・輝石岩・斑れい岩からなる層状構造が露出しています（写真２）．ここではモホ面の岩石や構造をよく観察することができます．

この露頭は，大飯原子力発電所の建設工事に伴う県道設置により1973年に開削され，それ以後約40年間，ほぼそのままの状態を保っていて，その間に多くの地質研究者や学生の研究・教育に利用されてきました．しかし，2012年11月に落石防止用の擁壁設置工事が行われ，当初の計画では吹き付け工法で露頭を覆ってしまうことになっていました．日本地質学会は，この露頭が地質学の研究・教育上重要であると判断し，施工者の福井県小浜土木事務所に対して露頭保全に関する要望書を送り，露頭の保全を働きかけました（本誌別掲p. 12）．その結果，この露頭の学術的・教育的重要性を理解していただき，擁壁は設置するものの，露頭は被覆せずに露岩のままとするよう，計画を変更していただくことになりました．既に工事が進行中であったにもかかわらず，迅速に計画の変更をご決定いただき，今後の研究・教育に利用できるよう露頭を保全していただいた福井県小浜土木事務所の皆様に，日本地質学会として心から感謝申し上げます．

現場の露頭は県道の急カーブの外側に当たり（写真３），従来は露頭の観察に交通事故の危険がありましたが，このたびのコンクリート擁壁の設置により，高速で通行する車両から観察者が守られることになり，観察者が交通の邪魔になることもなくなりました．擁壁設置により露頭の下部２mほどが隠れてしまいましたが，一方で露頭の上部を安全に観察できるようになり，工事中に露頭を１m程度削ったことにより新鮮な岩石が露出するようになりました（写真２）．露頭には擁壁北西端（向かって右側）の土盛りから登ることができます．ただし，この露頭は大島半島中央部を東西に横切る断層に近く，破砕帯が発達していて岩石が崩れやすいため，観察に当たってはヘルメットの着用と落石への注意が必要です．

写真２　露頭に発達するかんらん岩（黒色）と斑れい岩（白色）の互層．コンクリート擁壁の裏側で北西方向を向いて撮影．

写真１　露頭の全景．画面右半部の白くて新しいコンクリート擁壁の裏がモホ面露頭．左端の道路標識に道路名と地名が表示されている．露頭の東側から西向きに撮影．写真の撮影日はすべて2012年12月16日．

なお，このオフィオライトのモホ面は，ハッキリした１つの面ではなく，かんらん岩，輝石岩，斑れい岩の層が繰り返しながら，次第にかんらん岩を主体とするマントルから斑れい岩を主体とする地殻下部へ100 m程度の範囲で移り変わるもので（写真３），浦底のモホ面露頭はその「モホ漸移（ぜんい）帯」の中で特に黒っぽいかんらん岩と白っぽい斑れい岩の互層がよく発達する部分です（写真２）．今から約２億８千万年前の古生代の厚い海洋地殻の下の，海底から約20 kmの深さにあったモホ面が，その後の造山運動による隆起と侵食により現在の地表に露出していると考えられており，この露頭ではその証拠となるスピネル・斜長石レールゾライト（かんらん岩）やスピネル変斑れい岩などを観察することができます．詳しくは次の論文をご参照下さい：Ishiwatari, A., 1985, Granulite-facies metacumulates of the Yakuno ophiolite, Japan: evidence for unusually thick oceanic crust. *Jour. Petrology*, **26**, 1-30.

写真３　露頭の遠景．画面中央の白くて新しいコンクリート擁壁の裏がモホ面露頭．露頭の北側から南向きに撮影．露頭の背後の山は大島超苦鉄質岩体のマントルかんらん岩，露頭より手前側は地殻下部の斑れい岩から構成される．

意見・提言

おおい町大島の県道法面工事における露頭保全のお願い

平成24年11月20日

福井県嶺南振興局
小浜土木事務所御中

一般社団法人日本地質学会
会長　石渡　明

おおい町大島の県道法面工事における露頭保全のお願い

福井県おおい町大島半島地区の県道沿いの法面工事現場の露頭保全について，日本地質学会として要望申し上げます．

大島トンネル出口から北西へ約200メートルの地点は，添付資料の説明の通り，古生代の海洋地殻（夜久野オフィオライト）のモホ面（地殻とマントルの境界面）が陸上に露出している，日本では唯一のモホ面露頭であります．この露頭は約40年前に開削されて以来，ほぼそのままの状態を保っておりましたので，長年にわたり全国の地球科学関係の学生・研究者が見学や研究のために利用してきており，また外国の地質研究者も度々訪問してきました．ところが，現在この露頭を掘り下げて，コンクリートの防護壁を設置する工事が行われており，今後この貴重な露頭を観察することができなくなることが危惧される事態になっております．私ども地質学者は，このような工事が，道路通行の安全のために行われるものであることは十分に理解しておりますが，そのために貴重な自然遺産が消滅してしまうとすれば，残念でなりません．貴土木事務所におかれましては，このような学術的に貴重な露頭を，学生，研究者，そして一般の自然愛好者が施工後も観察することができるよう，適切な方策をとっていただきたく，よろしくお願い申し上げます．なお，日本地質学会は，道路工事で露出した貴重な露頭の重要性を理解し，その保全に尽力した千葉県南房総市を，平成23年９月９日に表彰させていただいたことを申し添えます（次のHPをご参照下さい）．

http://www.geosociety.jp/outline/content0103.html
http://www.green.go.jp/gyoumu/nogyo/05.html
http://www.green.go.jp/gijyutsu/pdf/tokutei_h2101.pdf

敬具

添付資料：

石渡　明（2001）「２．大飯：大島半島の夜久野オフィオライト」第2地点，大飯町朝倉鼻南東（モホ面）．北陸の自然をたずねて編集委員会「北陸の自然をたずねて」築地書館, 10-15.
石渡　明・中江　訓（2001）「福井県若狭地方の夜久野オフィオライトと丹波帯緑色岩」．日本地質学会第108年学術大会(2001金沢)見学旅行案内書, 66-84（第6班若狭, Stop 7）.
石渡　明（2006）「３．３　大島半島中部　舞鶴帯夜久野オフィオライトのモホ面露頭」．日本地質学会編「日本地方地質誌　中部地方」朝倉書店, 188-189.

専門部会だより

専門部会への登録のお願い

現在，地質学会には14の専門部会があります．その活動は部会によって様々ですが，年会の折にランチョンの開催，行事委員会に部会代表委員を出して年会プログラムの編成，部会として各賞の推薦なども行っています．また，各部会のメーリングリストでは，より専門性の高い議論や，シンポジウム・巡検案内などの様々な情報がタイムリーに交換されています．

現在では，会員情報の変更がWEB上で可能になり，専門部会への登録情報の確認や更新もできます．以前からお願いしています通り，これまですでに部会の活動に参加されている方も含めて，専門部会の登録をホームページ上から行っていただくようお願いいたします．専門部会に所属するための条件は，特にありません．会員であれば専門によって希望する部会に，自由な意思で参加することができます．複数の部会（とりあえずは３つまで）に参加することも可能です．登録して頂くことで，**名簿などが整備され，メーリングリストの構築なども容易になります．また学会HP上で部会メンバーとのSNSを利用した情報交換などを行って頂けます．**

会員の皆様が専門部会の活動に関心を持ち，積極的に参加されるようお願いいたします．

■現在活動中の専門部会は以下の14です（2013年１月現在）．
岩石部会/層序部会/第四紀地質部会/海洋地質部会/情報地質部会/構造地質部会/古生物部会/環境地質部会/堆積地質部会/現行地質過程部会/応用地質部会/火山部会/地域地質部会/環境変動史部会

【専門部会への登録方法】

・会員ログインページ（https://www.geosociety.jp/user.php）からログインし，左メニューから「会員登録情報」を開く．
・専門部会のプルダウンメニューで選択する（３部会まで登録可能）．
・最後に一番下の「変更を保存」をクリックで完了．

なお，会員ページへのログインには，会員番号からなるIDとパスワードが必要です・ログイン情報が不明の方は，学会事務局までお問い合わせ下さい．

環境変動史部会が発足しました

日本地質学会環境変動史部会が2012年10月に発足しました．

環境変動史部会は，地層や岩石から過去の地球の姿を読み解き，地球環境の変動史を理解する研究分野の専門部会です．多様な研究手法，様々な時間スケールで地球環境変動を捉える研究分野の発展に貢献することを目的としています．この専門部会を，環境変動研究者の情報交換・情報発信の場として機能させたいと考えています．

部会長：黒田潤一郎（JAMSTEC）
幹事：佐藤時幸（秋田大学）
幹事：川幡穂高（東京大学）
http://www.geosociety.jp/outline/content0049.html
（環境変動史部会のホームページは近日公開予定です）

環境変動史部会はできたばかりの若い専門部会です．メンバーの方々と一緒に築いていきます．

（部会長　**黒田潤一郎**）

お知らせ　学会サイトにコミュニティ機能が追加されました

図 1

日本地質学会のホームページ（http:// geosociety.jp）の左メニューの「ログイン」からアクセスして頂けますと，Island Arcの無料閲覧，会員特別割引販売，住所等の会員情報変更などのサービスをご利用頂けます．このたび新しい機能が追加されましたので，お知らせいたします．

◆コミュニティ機能

ログインいたしますと，左の会員メニューに支部情報，専門部会情報，ブログなどの新しいボタンが増えています（図１）．

専門部会，支部における情報交換：

専門部会および支部内の情報交換を目的とするものです（図２，３）．メンバーに登録すると，ここにトピックスを作成して投稿・閲覧することができます（支部登録は各登録住所の所在地により自動的に登録済み）．投稿すると，所属メンバーにメールとして通知されます．部会や支部の連絡網です．従来のメーリングリストとほぼ同じですが，発言内容がサーバー上に保存され，新規加入者を含めて過去ログを遡って閲覧できることがポイントです．また，オンラインで所属部会や住所を変更しますと，専門部会情報および支部情報の連絡網にも即座に反映されます．専門部会への登録は，「会員情報登録」からご自身で行っていただけます（最大３つまで登録可）．

会員個人の情報発信：

個人のページとしてブログ（日記）を記録することができます．会員相互の情報交換と長期的な情報の蓄積を目的としています．非会員の方は閲覧できませんので，学会内の交流にご活用ください．左メニューの「ブログを読む」は，他の会員の方が書かれたブログの一覧がご覧頂けます．「ブログを書く」からはご自身のページにブログを記録するとこが出来ます．写真やファイルを添付することもできます．
積極的にご活用下さい！

日本地質学会広報委員会

【専門部会情報画面】図 2

【支部情報画面】図 3

国立公園リーフレット　たんけんシリーズ3

城ヶ島たんけんマップ　深海から生まれた城ヶ島

岩礁海岸を中心とした豊かな自然景観を楽しめる城ヶ島。ハンディタイプのリーフレットが出来ました。
裏面は、城ヶ島の空中写真に示した観察ポイントごとに写真やイラスト付きでわかりやすく解説。野外での観察にも最適です。

編　著：日本地質学会地学教育委員会
発　行：一般社団日本地質学会

定価400円（会員頒価300円）
※20部以上ご注文の場合は割引あり

シリーズ1・2
「箱根火山たんけんマップ」
「屋久島地質たんけんマップ」
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

地学教育のページ

おめでとう，金メダル！国際地学オリンピック（アルゼンチン大会）

2012年10月８日～13日にアルゼンチンのオラバリアにて第６回国際地学オリンピックが開催されました．この大会には17か国・地域から66名の高校生が参加し，日本代表選手４名全員がメダルを獲得しました．各個人の成績は以下の通りです．

金メダル　中里 徳彦（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校３年）
銀メダル　島本 賢登（広島学院高等学校３年）
銀メダル　松尾 健司（灘高等学校３年）
銀メダル　丸山 純平（聖光学院高等学校３年）

授賞式後の記念撮影（写真左から，松尾・丸山・中里・島本各選手）．©NPO法人地学オリンピック日本委員会

また，国際地学オリンピック大会では，メダルを競う試験だけでなく，国際交流を主たる目的とした国際協力野外調査（通称，ITFI）という活動も実施されます．このITFIにおいても日本代表選手は実力を発揮し，以下の成績を収めました．

Best Cooperation賞　島本 賢登選手の所属チーム
Best Presentation賞　中里 徳彦選手の所属チーム

なお，大会の詳細は，NPO法人地学オリンピック日本委員会のHP（http://jeso.jp/）ならびに地質学会HPの地学オリンピックのページ（http://geosociety.jp/name/content00020.html）をご覧ください．

今回は初の南米大陸での開催で，移動時間の長さや時差の影響が心配されましたが，選手たちは各自で体調管理をしっかり行い，有意義な時間を過ごせたようです．

日本代表選手の活躍をねぎらうとともに，本来ならば日本で開催予定だった第６回大会を快く引き受けてくださったアルゼンチンの大会実行委員会（Selles-Martinez José教授代表）に深く感謝の意を表します．

最後に，第10回国際地学オリンピックの日本・三重県2016年開催が，10月８日開催の国際地学オリンピック運営委員会で正式に承認されました．今後とも，地質学会会員の皆様のご支援ならびにご協力を心よりお願い申し上げます．

（文責　地学オリンピック支援委員会　**渡来めぐみ**）

JSEC2012：地球科学関係の発表が入賞

第10回高校生科学技術チャレンジ（JSEC2012）（日本地質学会後援）で，応募総数の208件の中から予備審査・一次審査を通過した30件が最終審査会（12/15-16）に出場し，地球科学関係の発表として，下記の受賞がありました．

・科学技術振興機構賞：大阪府立春日丘高定時制課程
　「微小重力をつくる－室内でできる小型微小重力発生装置の製作と改良－」
・審査委員奨励賞：東京都立日比谷高等学校
　「地球磁場の生成と磁極の逆転に関する実験的考察－三重水槽を用いたモデル実験を基にして」

JSECはアメリカで行われるISEFに代表を送っています．上記２件は残念ながら派遣されませんが．高校現場で生徒を指導されている先生方，どうぞ，これまでの発表をご参考にさらにご指導いただくことを希望します．

なお，受賞発表の一覧など情報は以下のURLでも見ることができます．
JSEC2012のサイト〈http://www.asahi.com/shimbun/jsec/〉
http://www.asahi.com/science/update/1217/TKY201212170458.html
http://www.asahi.com/news/intro/TKY201212240385.html?id1=2&id2=cabcbccf

（**矢島道子**）

支部コーナー

☆西日本支部

お知らせ

西日本支部平成24年度総会・第163回例会

日時：平成25年２月23日（土）
場所：島根大学松江キャンパス
　同日夕刻（例会終了後）に懇親会を，前日（２月22日（金））夕刻に幹事会を催す予定です．
参加費（予定）：1,000円（一般）/500円（学生）（懇親会参加費は4,000円を予定）

※講演申込について
　講演は口頭・ポスターを予定しております．
　講演要旨（Ａ４一枚．PDFファイル．地質学会年会の講演要旨原稿フォーマットにそろえてください）をご準備下さい．
　ご準備いただいた講演要旨は下記西日本支部庶務あて（e-mail）にお送り下さい．その際に，連絡先（発表者氏名・所属・e-mail・電話の全て），発表様式希望（口頭・ポスター・どちらでも可，のいずれか）をお知らせ下さい．ポスターサイズは90 cm×180 cmです．
　（ただし，発表様式につきましては，ご希望に添えないこともあります．その際はご了承下さい）
　講演申込締切：２月15日（金）　17時

　また，例会終了後に予定しております懇親会の参加希望についても合わせてご連絡下さい．
　他，詳細は追ってお伝えします．例会プログラムは，講演申込み〆切後，早急にご連絡差し上げます．

申込・問い合わせ先：
　西日本支部庶務：宮本知治
　e-mail:miyamoto@geo.kyushu-u.ac.jp
　なお，ご連絡いただいた個人情報は西日本支部運営以外の目的に流用することはございません．

☆関東支部

報告

銚子巡検　報告

　2012年度関東支部の事業の一環として，関東地質調査業協会（共催）と日本第四紀学会（後援）のもと， 10月27日と28日の２日間にわたり「銚子巡検」が開催されました．案内者は高橋雅紀氏と鈴木毅彦氏で，一般の方，学生を含め，25名の方が参加されました．１日目は，天気が良好で，銚子周辺にみられる薄衣型礫岩（ペルム紀？）やジュラ紀付加体，白亜紀以降の前弧海盆堆積物や前期中新世の古銅輝石安山岩溶岩を，ほぼ予定通りに巡ることができました．また，２日目の午後が雨の予報でしたので，鮮新統～更新統の犬吠層群の１個所を１日目に観察しました．飲み会の前に開催された夜間講演会（約２時間）では，観察事項，昨今の知見，およびそれらに基づく日本列島形成史や関東平野の変動史の解説が高橋雅紀氏と鈴木毅彦氏によりなされましたが，大変好評でした．２日目は雨が降り，滑りやすい堤防を歩くコースを１個所中止にしましたが，ほぼ予定通りのコースを巡ることができました．参加者の皆様には変動帯としての日本列島の鳥瞰的理解を深めていただく機会を１つ提供できたのではないかとスタッフ一同満足しております．

写真：屏風ヶ浦の犬吠層群春日層に狭在する凝灰岩層Kg2bを観察している様子

　最後に，ご参加いただいた千葉科学大学の安藤生大氏をはじめ，銚子ジオパーク関係者の皆様には，現地にて大変お世話になりました．この場を借りて御礼申し上げます．

支部幹事　**加藤　潔**（駒澤大学）

参加者の感想：「銚子巡検に参加して」
　この度の銚子巡検では，一日目に銚子地域の新生界および中生界それぞれの層相，堆積年代，分布に基づく地質構造区分について，二日目に鮮新-更新統犬吠層群に挟在する広域テフラとその対比について，それぞれ理解することを目的として観察を行った．
　快晴となった一日目は産総研の高橋雅紀先生による案内である．巡検は銚子半島を北から南に下るルートであったが，中生界から新生界までの幅広い年代の多様な層相を呈する堆積物が，わずか10 kmの間に密に分布している様にまず驚く．またその層相も大変に多様であった．私は南関東の第四系を主に研究してきたため，中新世の砂岩挟在泥岩層である夫婦ヶ鼻層の層相にはいくらか馴染みがあった．また白亜系銚子層群の明瞭な層理面を呈する砂岩層についても，HCSなど特徴的な堆積構造が明瞭で，その堆積環境や堆積過程について考えを巡らせることができた．一方，中新統千人塚層は，安山岩が砂岩層中に挟在するというやや複雑な層相で，また露頭も海岸沿いに点在するのみという事で，短時間に観察した程度では十分な理解が困難であった．更に，ジュラ紀の付加体とされる愛宕山ユニットにおいて，白色の砂岩層中に黒色の泥岩の一部が取り込まれている様は，一見しただけでは混沌にしか見えない大変複雑な層相であった．その日の晩は，高橋先生による講義に食らいつく．巡検で観察してきた銚子に露出する地層とその分布が，日本列島の形成を論ずる上でどのような位置を占めるのかを，大変わかりやすく解説していただいた．
　二日目は，首都大学東京の鈴木毅彦先生の案内のもと，小雨の降りしきるなか屏風ヶ浦を歩く．荒々しい様相を呈するこの屏風ヶ浦の崖は，第四系犬吠層群の砂岩・泥岩混合層から構成されている．大変に露出がよく，見たところ断層や構造性褶曲も少ない．第四系の層序を確立する上で大変適している地層であるというのも納得である．今回は特に多数挟在する広域テフラについて解説をいただきつつ，観察や採取を行った．犬吠層群最上位層の下部更新統春日層においては，二枚の広域テフラ，Kg2bとKg1cを観察したが，Kg2bが主にバブルウォール型ガラスからなることを，舌触りでもって示される鈴木先生が印象的であった．「バブルウォールだとシャリシャリするんですよ」とのことなのですぐに真似してはみたが，判別できるようになるまでにはかなりの時間がかかりそうである．凝灰岩の記載をする過程で，舌で粒度を確かめるという方法があるということは教科書で読んだ記憶があったが，ガラスの形態までわかるというのは驚きであった．

この度の巡検では，銚子地域を通じて日本全体の形成過程や層序関係について理解を深めることができ，大変有意義であった．また，研究者をはじめとする大勢の方々と積極的に意見交換などができた点も私にとっては非常にプラスとなった．最後に，この場を借りて，案内人を務めてくださった先生方をはじめ，お世話になった参加者の皆様に心より御礼申し上げたい．

野崎　篤（横浜国立大学環境情報学府
環境生命学専攻博士課程後期３年）

☆関東支部　お知らせ

『地質研究サミット』シリーズ：第１回
「房総・三浦地質研究サミット」開催（第２報）

関東地方の地質に対して鋭い斬りこみをかけている各研究グループの中心メンバーが一堂に会してホットな研究成果を発表するとともに建設的な議論を行い，関東地方地質研究の新展開を図ります．

主催：日本地質学会関東支部
共催：千葉県立中央博物館，協力：横須賀市自然・人文博物館
期日：**平成25年３月９日（土）～10日（日）**
場所：千葉県立中央博物館（千葉市中央区青葉町955-２）
対象：日本地質学会員および一般の方（参加申込不要；参加費無料；要旨集1,000円予定）

主な日程：
３月９日（土）9：30　受付
　10：00～18：00　シンポジウム
　セッション１：房総・三浦半島の地質：全体像
　セッション２：房総・三浦の地殻大構造
　セッション３：葉山－嶺岡帯解明の今日的意義
　※シンポジウム終了後に懇親会を予定（博物館内予定）
３月10日（日）9：30　受付
　10：00～17：00　シンポジウム
　セッション４：沿岸―浅海地質調査のすすめ
　セッション５：防災・減災最前線としての房総・三浦
　ポスター発表コアタイム
　総合討論
　（注意：講演数によっては若干の時間変更とセッションの日時移動がありえます）
CPD単位の取得可能です．

世話人：山本由弦（JAMSTEC），石川正弘（横国大），亀尾浩司（千葉大），高橋直樹（千葉中央博），柴田健一郎（横須賀博），米澤正弘（県船橋高），伊藤谷生（帝京平成大）

問い合わせ先
　千葉県立中央博物館
　高橋直樹（takahashin@chiba-muse.or.jp）

学会オリジナルフィールドノート　好評発売中！

卒業記念やイベントでのグッズに！

ご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートは，名入れサービスも承ります（有料）。
ビニールコーティングの表紙は，水や摩擦・衝撃にも強く野外調査に最適です。ぜひご活用ください。
　サイズ：12×19cm.
　中：レインガード紙使用．2mm 方眼.
　カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し.
　色：ラセットブラウン（小豆色）

定価 600 円（会員頒価 500 円）

ご注文・お問い合わせは，学会事務局まで <main@geosociety.jp>

2013年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2013年４月～2014年３月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2013年４月～2014年３月分会費
正会員	12,000円
〃　（院生割引）※　要申請	8,000円
〃　（学部学生割引）※　要申請	5,000円

※学部に在籍している学生の方，定収のない大学院生（研究生）の方で，それぞれ所定の書式で申請をされた方にのみ割引会費を適用します．なお，2012年度までの学部学生割引・院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2013年度会費にのみ適用となります．

１．自動引落を登録されている方 12月25日（火）に引き落としを行いました．

2013年度分会費は12月25日に引き落としを行いました．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としされています．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「SMBC」などと表示されておりますので，必ずご確認下さい．

２．上記以外の方（お振り込み）

12月中旬頃に請求書兼郵便振替用紙をお送りいたしました．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

３．自動引き落としをご利用下さい．

請求書に同封の書式にてぜひ自動引き落とし申込をお願いいたします（お申込数によっては2013年３月または６月にも引き落とし手続きを致します）．自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．自動引き落としを希望する方は，「自動払込利用申込書」をお送り下さい．

一般社団法人日本地質学会　会計委員会

災害に関連した
会費の特別措置のお知らせ

日本地質学会では，災害救助法適用地域で被災された会員の方々のご窮状をふまえ，以下の措置を取らせていただきます．

「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち，希望する方」は2013年度（平成25年度）会費を免除することといたします．

2012年度において，災害により被害にあわれた方のうち，この措置の適用を希望される会員は，①会員氏名②被害地域③被災状況（簡単に）を明記し，学会事務局までお申し出下さい．お申し出の方法は，郵送，FAX，e-mailのいずれでも結構です．締切は，2013年２月25日（月）までとさせていただきます．

※通常の会費払い込みについては，上記「2013年会費払い込みについて」をご参照下さい．

2013年１月４日
日本地質学会　会計委員会

2013年度（2013.4～2014.3）
学部学生割引・院生割引申請受付中！

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究者）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．該当される会員は所定の書式にて申請書を提出してください（本誌別掲，郵送に限る）．

＜注意＞

１．2013年４月から社会人になる方は割引会費の申請はできません．

２．毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．

最終締切：2013年３月29日（金）

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2013年度（2013.4～2014.3）学部学生割引・院生割引会費の受付開始

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．2012年11月14日（水）に一旦受付を締め切りましたが，まだ，申請書を提出していない方で，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．**最終締め切りは2013年3月29日（金）です．この期日までに申請書を必ずご提出ください．なお，これまで（～2012年度）の院生割引会費についての申請受付は終了していますので，2013年度分の申請のみ適用となります．**

★注意★
毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請して下さい．
2013年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2－8－15井桁ビル6階
一般社団法人日本地質学会

2013年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中

私は，運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき，2013年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期 ・ 後期 年在学中

2013年4月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教官（等）

所属：

氏名：　　印

最終〆切

2013年 3 月29日（金）

CALENDAR

2013.1～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2013年

1月　January

○水環境学会第58回セミナー
「東日本大震災後の水環境における放射性物質の挙動」
１月24日（木）
場所：自動車会館大会議室（千代田区九段南）
https://www.jswe.or.jp/

2月　February

○学術フォーラム「自然災害国際ネットワークの構築にむけて：固体地球科学と市民との対話」
日本地質学会　後援
２月１日（金）13:00～18:00
場所：日本学術会議講堂（東京都港区乃木坂）
コーディネーター：北里　洋（第三部会員）ほか
http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html

★西日本支部：平成24年度総会・第163回例会
２月23日（土）
場所：島根大学総合理工学研究科
同日夕刻に懇親会を，前日（２/22）夕刻に幹事会を予定
問い合わせ先：西日本支部庶務：宮本知治
e-mail:miyamoto@geo.kyushu-u.ac.jp

3月　March

○Project A 2012年 in 伊豆下田
３月５日（火）～８日（金）
場所：伊豆半島下田（静岡県）
・シンポジウム「地球史と海底カルデラ：海底火山活動を記録する伊豆半島とジオパーク」
www.archean.jp

★関東支部：第１回「房総・三浦地質研究サミット」
３月９日（土）～10日（日）
場所：千葉県立中央博物館
http://kanto.geosociety.jp/

○変成岩などシンポジウム
日本地質学会岩石部会　後援
３月15日（金）～17日（日）
場所：北海道定山渓温泉　ホテル鹿の湯（札幌市南区）
トピックセッションとして「metamorphism とmetasomatism」を予定
参加費：21,000円
問い合わせ：竹下　徹〈torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp〉

○ひょうご恐竜化石国際シンポジウム
日本地質学会ほか　後援
日程：2013年３月16日（土）
場所：兵庫県立人と自然の博物館
申込締切：２月22日（金）
http://hitohaku.jp/top/dinosaur_symp.html

○第８回「海洋と地球の学校」
海洋研究開発機構　主催
３月19日（火）～23日（土）
場所：高知県立青少年センター・のいちふれあいセンター・室戸周辺地域（野外巡検）
応募締切：平成25年３月12日（火）必着
http://www.jamstec.go.jp/j/pr/school/008/index.html

○International Petroleum Technology Conference（IPTC）
３月26日（火）～28日（木）
場所：Beijing, China
http://www.iptcnet.org/

4月　April

○CHIKYU+10 国際ワークショップ
４月21日（日）～23日（火）
場所：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋）（予定）
http://www.jamstec.go.jp/chikyu+10/

5月　May

○2013 Western Pacific Sedimentology Meeting
台湾地質学会，日本堆積学会　主催
日本地質学会，IAS，SEPMほか　共催
５月13日（月）～18日（土）
13日・14日　研究発表　15日～18日　巡検
場所：The Longtan Aspire Resort, Taoyuan, northern Taiwan
講演要旨締切：2013年２月28日
登録締切：2013年３月15日
http://wpsm.ncu.edu.tw/

★日本地質学会第５回（2013年度）総会
５月18日（土）12:30～14:00
場所：北とぴあ（東京都北区王子）

○日本地球惑星科学連合2013年大会
５月19日（日）～24日（金）
場所：幕張メッセ国際会議場（千葉市美浜区）
http://www.jpgu.org/meeting/index.htm

7月　July

○第50回アイソトープ・放射線研究発表会
日本地質学会　共催
７月３日（水）～５日（金）
会場：東京大学弥生講堂
発表申込締切：２月28日（木）
http://www.jrias.or.jp/

○国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会
日本地質学会　後援
「IAVCEI2013 Scientific Assembly」
７月20日（土）～24日（水）
場所：鹿児島県鹿児島市
http://www.iavcei2013.com/

8月　August

○第６回地殻応力国際シンポジウム
日本地質学会　後援
８月20日（火）～22日（木）
場所：仙台国際センター（宮城県仙台市）
http://www2.kankyo.tohoku.ac.jp/rs2013/

9月　September

★日本地質学会第120年学術大会（仙台大会）
９月14日（土）～16日（月・祝）（予定）
場所：東北大学ほか

地質図在庫一覧

2012. 12. 28 現在

コードNo.	シリーズ名	出　版　物　名	定　価	在庫数
G00022	1/5万	秋　　田（第２刷）	1,800	2
G00107	1/5万	市　野　瀬（第２刷）	2,400	1
G00114	1/5万	伊　　東（第３刷，説明書なし）	900	2
G00157	1/5万	上　　野	4,000	1
G00182	1/5万	浦　　郷	3,200	1
G00270	1/5万	小値賀島（小値賀島・肥前平島:G00995）	2,400	1
G00304	1/5万	海　田　市	2,700	1
G00307	1/5万	柿　　崎	3,300	1
G00406	1/5万	北　小　松	3,900	1
G00508	1/5万	御　　油	3,200	2
G00526	1/5万	桜　　井	4,000	2
G00620	1/5万	末　　吉	3,100	1
G00632	1/5万	須　　磨（第２刷）	2,400	1
G00648	1/5万	千　　厩	2,900	1
G00854	1/5万	中　　野	2,500	2
G00879	1/5万	名　　張	3,200	2
G00880	1/5万	浪江及び磐城富岡	3,300	1
G00906	1/5万	西　　津	4,100	1
G01017	1/5万	広　　根	3,500	1
G01029	1/5万	福　　岡	3,700	1
G01031	1/5万	福　知　山	3,200	1
G01048	1/5万	豊後杵築	3,900	2
G01208	1/5万	温泉津及び江津	4,200	1
G01217	1/5万	横　　山	3,700	1
G01269	1/5万	川前及び井出	6,000	2
G06002	1/20万	青　　森（第２版）	2,200	1
G06012	1/20万	厳　　原	1,300	1
G06014	1/20万	一　　関	2,900	1
G06018	1/20万	宇　都　宮	2,600	1
G06019	1/20万	浦　　河	2,500	2
G06026	1/20万	岡山及び丸亀	2,500	1
G06029	1/20万	開聞岳及び黒島の一部	2,400	2
G06034	1/20万	木　　本	1,300	1
G06040	1/20万	熊　　本	2,700	2
G06041	1/20万	久　米　島	1,800	2
G06048	1/20万	西　　郷	2,200	1
G06071	1/20万	徳　　島（第２版）	2,000	1
G06093	1/20万	八　丈　島	1,300	1
G06115	1/20万	村　　上	2,600	1
G06120	1/20万	八代及び野母崎の一部	3,000	1
G06122	1/20万	夕　張　岳	2,400	1
G06131	1/20万	小笠原諸島	2,200	1
G07003	1/50万	旭　　川（第２版）	2,000	2
		CD-ROM　日本地質図索引集	900	1
G08009	数値地質図	DGM　M-1　日本周辺海域音波探査ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ	900	1

★ご注文はE-mail（main@geosociety.jp）またはFax（03-5823-1156）で．特別販売価格については，ご注文の際に事務局にお問い合わせください．

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2012後期号）発行！

申込・問い合わせ：一般社団法人　**日本地質学会**
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

地質リーフレット 4

日本列島と地質環境の長期安定性

地質環境の長期的利用の観点から、日本の地質環境を分かりやすくまとめたリーフレット。
最新のデータに基づき、日本列島の断層運動、火山・マグマ活動等の特徴、そして将来予測の考え方を示しています。
多くの方々に活用して頂けることを願っています。

編集　一般社団法人日本地質学会　地質環境の長期安定性研究委員会
発行　一般社団法人日本地質学会
2011年1月発行　B2版　両面フルカラー

定価600円（会員頒価500円）
（20部以上の場合割引あり）

購入希望の方は、学会事務局まで。
e-mail: main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150

そのほかの地質リーフレットシリーズも好評発売中！

1. 大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震災害—
2. 大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo–Pollutions
3. 大地をめぐる水—水環境と地質環境—

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp